



TITLE:

文献検索の機械化を望む

AUTHOR(S):

CITATION:

文献検索の機械化を望む. 静脩 1966, 2(5): 2-2

ISSUE DATE:

1966-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36310>

RIGHT:

文献検索の機械化を望む

立派な医学図書館が新設されたことを衷心よりお祝いする。日々多数の新鋭医学者がこの図書館を利用する所を見て非常に嬉しい。最近の大ヒットに相違ない。この図書館は藤原財団、ロックフェラー財団及びチャイナ メジカル ボード等の援助で出来上り大いに利用されていることを思えば、この種の専門図書館が医学研究者の間に如何に久しく切望されていたかが明白である。

斯様な図書館が新設されるに至った意義の一つとして、若い学徒の文献検索の修練道場が狙い所であろう。今日の訪問者がやがては卓越した研究者に、又は実地医家に成育し、今日の努力が後日偉大な業績の完成の基となるのが望まれているに違いない。然し私が時々目撃する所は若い研究者が不慣れな文献渉猟に非常な努力と貴重な時間を消費している事実である。若し適当な方法が工夫されて是等の若い人々に文献渉猟の便宜を計ることができれば、鋭気の青年研究者の貴重な時間を節約し得、実験になり、臨床観察になり、又は実験成績の整理なりに振り向けることができる。こんな効果を期待するためには種々の方法があるだろう。その一つとして最近注目されてきた電子計算機の利用を考えてみては如何？私は多年渉猟した文献の控えのカードを私なりの我流に分類して蓄積している。然し私の常に感じる所はもっと巧みな方法でカードの整理ができておれば、文献検索に時間の節約ができると云うことである。私自身は電子計算機については全くの素人であるが、専門家の話では文献整理の如き方面への電子計算機の利用は大いに有望のようである。例えばある若い研究者が腹部大動脈瘤の研究を始めたとする。参考文献の遺漏がないようにするには図書館の龐大な蔵書中から、古い症例報告をはじめ最近の研究に至るまで検索するのに長時間の労作を為しとげねばならない。こんな時に若し予め整理された記録から電子計算機のような優秀な手段で関係文献目録が供給されれば、この研究者をどんなに援助したことになるだろうか。多数の報告から彼が彼の研究に直接関係のある必要文献の複写を求め、座右に備えることができれば多大の便宜を得たことになる。そうなれば図書館活動が更に拡大され、京都ばかりでなく日本全国は云うに及ばず全国各地の研究施設からの要望に応ずることができ、高い賞讃を博するに違いない。

こんな仕事は唯だに医学に限るものでなく他の学問の領域にも希望があることと思う。また斯様な計画が日本に一ヶ所あれば全国の要望に応じ得るのであるから、今回新設された京大医学図書館に限る訳ではないが、私はこんな立派な医学図書館が出来たのであるから更に一步を進めて、先づ医学領域から、そして京大医学図書館から文献検索の機械化を考えていただきたい。

医学図書館の新設を祝賀すると共に私の年来の希望を述べる。(名誉教授 舟岡 省五)

京都大学図書館改善委員会終る

京都大学図書館改善特別委員会は去る昭和39年12月11日に第1回が開催されて以来、およそ一年間にわたり行なわれてきたが、昨年の11月16日の第10回をもって一応終了した。この間委員会は大学図書館の近代化の見地から、図書館サービスの現状における問題点と将来のあり方、部局図書室の構想、付属図書館の概念等の重要な課題をはじめ多くの問題点について検討し、活発に論議され、有益な助言や、意見が出された。今後の図書館運営については本委員会の成果が強く打ち出されるものと期待されている。